職員検討会、市民ワークショップでの意見を踏まえ、これからの公共施設が目指すべきビジョン（案）を以下のとおり整理しました。公共施設等総合管理計画に定める基本目標、基本的な考え方に加えて、このビジョンの実現に向けて、令和8年度以降、各施設ごとに、在り方について具体的な検討を行っていきます。

なお、これからの公共施設が目指すビジョンの実現を図る上においても、**公共施設等総合管理計画における基本目標「人口動向に合わせた総量抑制・更新費用及び維持管理費の縮減」を踏まえた上で、持続可能な公共サービスを実現するために、保有する公共施設の規模及び配置を適正化していく必要**があります。

これからの公共施設が目指すビジョン（案）

● 交流・つながりの場

これからの公共施設は、人が集まり、つながるきっかけとなる場として設置していきます。公共施設をとおして、多様なコミュニティを形成し、人と人の出会いや新しい活動との出会い、その人が活躍できる、そんな場として設置していきます。

● 居場所となる場

これからの公共施設は、一人ひとりの居場所になる場、目的がなくてもふらっと入れる場として設置していきます。ユニバーサルデザインを取り入れ、誰もが利用しやすい公共空間をデザインするとともに、ひとりでもグループでも利用したくなるような場として設置していきます。

● 目的によらない自由に利用できる場

これからの公共施設は、使用する市民一人ひとりがそれぞれの利用目的によって、利用できる場として設置していきます。そのため、各施設の核となる機能以外の諸室に関しては、利用目的をできる限り、フレキシブルに利用ができるように定め、様々な市民が利用できる場として設置していきます。

● 社会やニーズにあわせて変化・対応していける場

これからの公共施設は、市民ニーズの変化に対応できるようなフレキシブルな構造や諸室構成にすることでいつの時代も常に利用され続ける場として設置していきます。

● 地域防災を支える場

公共施設のうち災害時の拠点にも位置付けられた施設については、防災機能の整備・充実を図り、地域防災を支える場として設置していきます。

● 行政が担うべき公共機能・サービス提供の場

学校教育など法令等で行政が担うべき事業を実施する場として公共施設を設置していきます。民間事業として成立する事業に関しては民間に委ね、公共施設に関しては行政が実施する事業の場にふさわしい場として設置していきます。